

# 神奈川県横浜市立神奈川小学校

(様式 4-2 : 令和 2 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる学校支援制度  
実施結果報告書)

## 実施結果報告書

1. 学習名称 : みんなでつなごう、神奈川のまちの未来へのレール					
2. テーマ : ・昔と今の交通の違いについて調べよう ・交通の変化とまちの変化の関わりについて考えよう ・鉄道のよさを未来に残そう					
3. 実施教科 : 社会科および総合的な学習の時間					
4. 関連単元 : 社会科「環境をともに守る」					
5. 実施単元数 : 50 時間					
6. 学年	5 年	7. クラス数	1 クラス	8. 生徒数	28 名
9. 実施内容 ①かつて神奈川小学校区を走っていた旧路線跡が残る場所を訪れ、観察したり調べたりすることを通して、鉄道とまちの移り変わりを関連付けて考える学習を実施した。(5 時間) ②1960 年代まで神奈川小学校区には横浜市電 (路面電車) が走っていたことを知り、当時の神奈川小学校区の交通網を再現しようと、ジオラマを制作する計画を立てた。横浜市電について調べるため、およびジオラマ制作のヒントを得るために、グループごとに横浜市電保存館への経路を調べ、自分たちだけの力で移動し、横浜市電保存館を見学した。(15 時間) ③2021 年 3 月に箱根登山鉄道の「モハ 2 形 109 号」の車両が引退を迎えることを知り、クラス全員で「モハ 2 形 109 号」に乗車するために、自分たちの力で箱根に行く計画を立てた。グループごとに経路を調べたり、鉄道会社に運行ダイヤについて問い合わせたり、学校長の許可を取り付けるために交渉したりして、箱根への校外学習を実現し、「モハ 2 形 109 号」の車両にクラス全員で乗車した。(15 時間) ④小学校 3 年生の社会科学習に役立ててほしいという思いをもち、既に校内に設置された現在の校区を再現したジオラマと比較できるように、1960 年代の神奈川小学校区の交通網を再現したジオラマを制作した。(15 時間)					

## 10. 学習のながれ：

### ①旧路線跡の観察・調査

(児童が立てた問い)

- ・「京急仲木戸駅」の「仲木戸」という駅名には、どんな由来があるのだろうか。
- ・「京急仲木戸駅」から「京急東神奈川駅」に名前が変わったのはなぜだろう。
- ・昔から「京急仲木戸駅」が高架になっているのはなぜだろう。
- ・「横浜線」なのに、横浜駅ではなく東神奈川駅止まりなのはなぜだろう。

児童にとって京急東神奈川駅周辺は身近な場所だが、問いを立てて改めて考えることで、児童は交通への関心を高めたり、新たな問いを見出したり、交通の広がりやまちの発展は大きく結びついていることに気付いたりすることができた。児童は、「仲木戸」の駅名が、江戸時代、将軍が宿泊するための施設を囲む木の柵のことを「木戸」といい、「木戸」の内側の地域を「なかきど」と呼んだことに由来すること、乗り換え可能な駅として多くの人に認知してもらうために駅名を改称したこと、京急線の線路の下を横浜鉄道貨物線が通っていたことを知ることができた。また、昔から保存されてきた旧路線跡などの場所をこれからも守り続け、次の世代に受け継いでいくことの大切さについて考える姿がみられた。



旧路線跡を観察する児童の様子



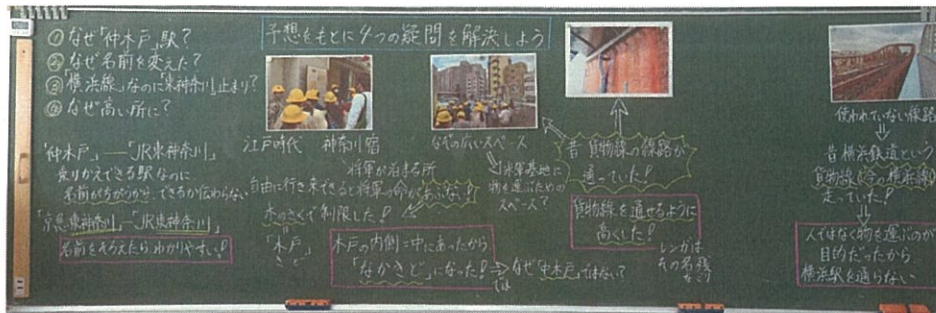
情報機器を用いて問題解決する児童の様子



横浜鉄道貨物線の線路の跡



横浜鉄道貨物線海神奈川駅跡地



児童が疑問を解決した授業の板書

②横浜市電保存館の見学

(児童が立てた問い)

- ・ 神奈川小学校区を走っていた市電はどこまで続いていたのだろうか。
- ・ 横浜市電保存館へはどうやって行くのだろうか。
- ・ 京急線と JR 線のどちらを使えば早く、安く、楽に到着できるのだろうか。
- ・ 横浜市電はどうして廃線になったのだろうか。

児童自身が 4 人グループで目的地までの所要時間や運賃を調べ、比較しながら経路を選択することを通して、今後の生活において自力で目的地に到着できるようになるための資質・能力が育ったと考える。運賃を抑えるために最寄り駅からバスに乗りせず徒歩で向かうことを選択したグループもあった。また、乗車予定だったバスが出発してしまい、計画を変更せざるをえないグループもあったが、乗り遅れた場合のことを考え、予備の経路を調べていたため、落ち着いて対応していた姿がみられた。このことから、児童は不測の事態に備え、見通しをもって活動計画を進める力を高めたと考える。



調べた経路で移動する児童の様子



横浜市電の車両



横浜市電保存館への経路を調べた授業の板書

### ③箱根への校外学習

(児童が立てた問い)

- ・校外学習を実現するためにやるべきことは何だろう。
- ・箱根へはどうやって行くのだろう。
- ・昼食や交通費はどうすればよいのだろう。
- ・モハ2形109号が箱根湯本駅を出るのはいつだろう。
- ・校長先生の許可をもらうために伝えるべきことは何だろう。

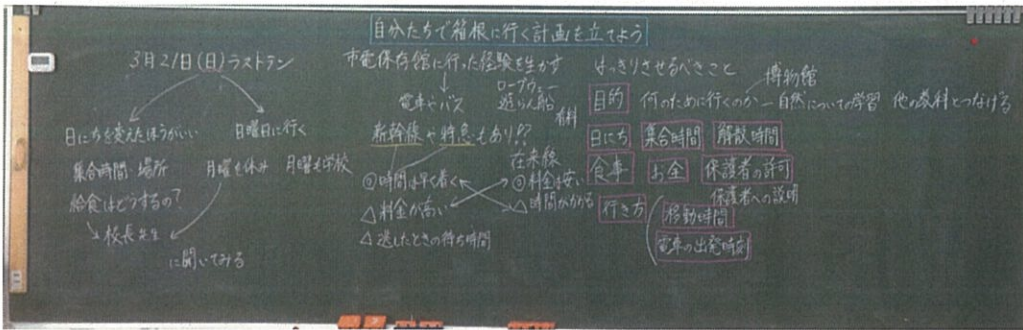
一名の児童が箱根登山鉄道の「モハ2形109号」のラストランの記事を見つけ、クラス全員に提案したことから活動が広がっていった。校外学習を実現させるために、話し合うべきことをリストアップし、児童自身が学校長に交渉したり、鉄道会社に運行ダイヤについて問い合わせたりしながら計画を進めていった。雨天の場合昼食はどうするのか、下校時刻に間に合うようにするには目的地をどうするのかなど、様々な問題に直面するたびに計画を練り直し、合意形成を図る児童の姿がみられた。この学習を通して、児童はできることとやりたいことを調整する力を高め、自分たちの力で校外学習を実現させたという達成感を得ることができた。



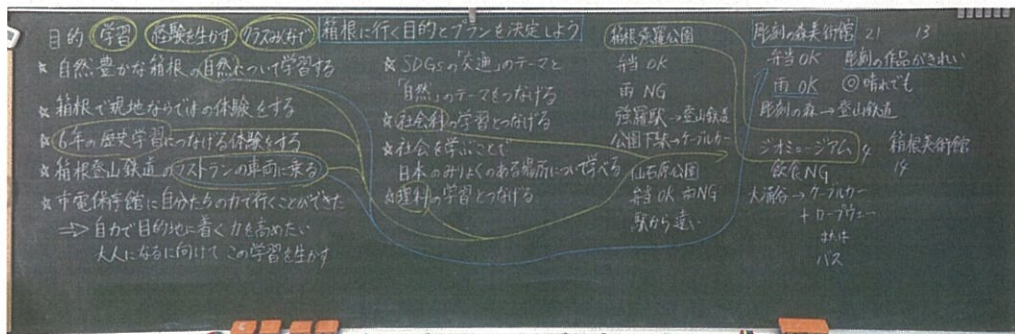
学校長と交渉する児童の様子



箱根登山鉄道モハ2形109号



箱根に行く計画を立てた授業の板書



箱根に行く目的について話し合った授業の板書

#### ④校区のジオラマ制作

(児童が立てた問い)

- ・どんな材料を使えばジオラマを作ることができるだろう。
- ・現在自分たちにとって身近な場所はかつてどんな場所だったのだろう。
- ・横浜市電の駅はどの辺りにあったのだろう。
- ・3年生の学習のためにジオラマにはどのような情報を載せるべきだろう。

社会科で横浜市の様子の変り変わりについて学習する3年生の役に立ちたいという思いから、校内に設置されている現在の神奈川小学校区のジオラマ（2018年度作成）と比較しながらまちの変り変わりについて考えることができるように、1960年代の神奈川小学校区を表現したジオラマを制作した。これまで調べてきた情報をジオラマに添付し、校内に展示するために、どのような情報があれば学習に役立つか、どの情報が見てくれる人にとってわかりやすいかという視点で計画を進める姿がみられた。



ジオラマの土台を糸のこで切断する様子



ジオラマを色づけする児童の様子



1960年代の神奈川小学校区のジオラマ



現在の神奈川小学校区のジオラマ

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。